

移住就農

新規参入

研修制度

むらもと ひでお

村本 英夫さん（新見市）



就農：2018年8月（就農当時47歳）
新規就農研修：2016年8月～2018年7月
就農パターン：移住就農（北海道出身）
耕地面積：80a（うち借地80a）
経営面積：ぶどう80a（主には3品種）
経営参画者：本人、妻

夫婦で東京に旅行中、写真に写った『黒く大粒の新見産ぶどう』に一目惚れ。最高の作物に出会えた。あの時の選択は、間違っていなかった。

——就農のきっかけは？

2016年2月、夫婦で東京に旅行中、岡山県の新規就農者募集チラシに掲載された「黒く大粒の新見産ぶどう（ピオーネ）」が目に入り、『このぶどうを作りたい』と強く思った。

——前職の経験は活かしている？

前職は60haの大規模稲作農家。農家になる前、27歳までJAに勤務していた。作目や規模は違うが、ぶどう農家としての自分の姿が想像でき、他産業からの転職よりも心理的なハードルが低かったと思う。

——岡山（新見市）を選んだ理由は？

目に飛び込んできたチラシのぶどうが衝撃的で、岡山県産ぶどうに一目惚れした。

先祖が山口県に住んでいたため、移住するなら大阪より西がよいと思い、岡山県内の複数のぶどう産地を見学した。最終的には、落葉やカヤを敷きつめて草一つない新見市独特のぶどう畑にビビビッときて（とても美しい！）、新見市を選んだ。

——「ぶどう」を選んだ理由は？

北海道には岡山県産のような立派な黒ぶ

どうはなく、『どうしてもこれを作りたい』との思いから、ぶどう以外の選択肢はなかった。移住した年に初めてこのぶどう（ピオーネ）を口にし、ぶどうを選んで間違いはなかったと思った。

——就農で苦労した点と解決方法は？ 【農地】

研修終了が近づいても農地がなかなか見つからず、本当に焦った。他の研修生は園地が決まる中、就農担当者からは「早く見つけるように」と言われ、『飛び込むのは早計だったか』とも思ったが、研修終了半年前に30aのぶどう棚のある耕作放棄地を紹介してもらえた。

荒れた農地の再生に向けて、最初は一人手作業で雑木抜根や草刈、施肥管理など行っていたが、師匠をはじめ、周囲の方たちが見かねて機械を貸してくれたり、手伝いや指導をしてくれたり、なにかと助けてくれた。定植3年目の初収穫の年（令和元年）は晩霜被害を受けて出荷できないトラブルもあったが、今では経営も軌道に乗り、追加で50aのほ場を借りている。

【資金（経営・生活）】

北海道時代から蓄えてきた自己資金のみで対応した。借り入れはしていない。

また、収入が途絶える期間は、研修中の資金助成（年額 150 万円）に助けられた。

【栽培技術】

多くの知識、技術を習得するため、農業普及指導センターの勧めで 3 人の師匠に学んだ。師匠らは今でもほ場に来て助言してくれたり、こちらから訪ねたりと交流を続けている。また、この 2 年間は中止になっているが、就農後もぶどう栽培研究会の視察研修等へも参加し、技術を高めている。

【住宅】

研修中は研修生用の住居に夫婦と 2 人の子供で入居した。就農後は市が管理する新規就農者向け住居を借りている。

【機械・施設の準備】

借りた農地や家に作業場がなかったので、作業効率を考え、市の了承を得た上で、住居横の敷地に自己資金で新たに作業場を設置した。

【家族の理解】

妻が「一度決めたら聞かない夫についていこう」と決心してくれたことで移住、ぶどう農家への転身が実現できた。

——計画と現実のギャップはあった？

北海道には無い梅雨や山の圧迫感など、生活環境の違いが原因で、精神的、体力的にきつい時期があった。

——地域への適応、順応に苦労した点、気を付けた点は？

保育園や小学校での奉仕活動があったり、スクールバスがなかったりなど、これまで

と異なる点もあったが、積極的に地域活動に参加している。特に苦労した点はない。

——経営目標は？

師匠や地域への恩に報いながら、師匠に負けないぶどう作りで 8 桁農業（売上 1000 万円）を目指して頑張る（色々なぶどうを植えて、味を楽しむこともしたい）。

——農業のやりがいは？

果樹は世話が大変。世話をしないと育たない。良品とそうでないものとは値段も大きく違ってくる。だからこそ、面白い。

手を入れれば、ぶどうはその分応えてくれる。特に細かな手作業が必要な「粒間引き」がとても楽しい。

——産地に入るメリットは？

産地にブランド力があること。なんといっても、新見産のぶどうは黒く大粒・高品質で、国内外でのブランド力が大変高く、安定した販売が見込める。

また、選果場があるので栽培に集中でき、生産者仲間と情報交換もできる。

——後進へのアドバイスは？

就農は真剣に取り組まないと難しいので安易な気持ちで進むのはあまりお勧めしないし、資金は十分に準備したほうがよい。

——就農前の自分へのアドバイスは？

間違っていなかった、君の選択はこれで合っていたよ。

——私の一文字

「喜」。

最高の作物に出会えた。